

# 第5学年 若竹タイム 学習指導案

日時 平成20年10月17日(金)2校時  
児童 男子4名 女子8名 計12名  
指導者 教諭 熊谷史恵

## 1 単元名 勇気米を作ろう

## 2 単元について

5年生の社会科「農業のさかんな地域をたずねて」では、稲作農家の仕事や生産を高めるための工夫と努力について学習した。また、5年生の総合的な学習では、地域を支える産業に目を向け、食と健康との関わりや生命の大切さへの関心をもたせることをねらいとしている。そこで、米作りについての体験学習を取り上げ、日本人の主食である米についての関心をもたせたいと考えた。また、地域の農家の方々の工夫や努力について知ることによって郷土を大切にしていこうとする気持ちを育てたいと考え、この単元を設定した。

さらに、横田町は、豊かな緑と気仙川の水に恵まれ、たくさんの米や野菜が作られている。この豊かな緑を大切にしたいという地域の農業従事者の方々も多く、有機栽培で米作りに取り組んでいる方から指導をいただくことで、安全でおいしい米を作ろうという意欲を大切に環境問題や食の安全性にも目を向けさせる機会としたい。また、田んぼでの体験学習を通し、作業の大変さや収穫の喜びを感じることで、一粒の米も大切にしようとする態度につながっていくものと考えている。

## 3 児童について

児童の家庭は、兼業農家が多く、ほとんどが水田を所有し米作りの仕事に携わっている。しかし、児童においては米作りの作業体験が少なく、米についての知識も乏しい。

児童は、これまで社会科「食料生産を支える人々」において米作りの作業手順や仕事の内容、米作りに従事する人たちの願いや日本の食料自給率などについて学んできた。理科「植物の発芽と成長」においては、植物の発芽や成長に必要な条件を学んできている。また、音楽科「アジアの音楽に親しもう」の学習においては、横田町の民謡「じんこ」に親しみ、その節で踊られる百姓踊りを学習し、昔の米作りの作業や踊りにこめられた農家の人々の思いに興味をもち始めている。

実際の米作り体験では、ぬかるみに足を取られて苦労した田植え作業や、暑い中、汗を流して行った田の草取り作業等を体験する中で、米作りの大変さを感じたり、代掻きをしてくださった地域の方や田植えのお手伝いをくださったPTAの方々に感謝の気持ちを抱き始めている。

また、田植え後に毎週水曜日を稲の観察日として田んぼの水温や稲の生長を記録する活動を通して、稲がぐんぐん伸びることやたくさんの花をつけたことなど稲を育てることに喜びを感じてきているように思われる。

このように、米作りの様々な作業や活動を体験させることによって、自ら課題を見つけ、調べたり感謝しながら活動に積極的に参加したりする気持ちを育てることができないのではないかと考えた。

## 4 指導について

現在の「食」に関わる様々な問題については、ひとりひとりの児童がまずこれらの問題を自分のこととしてとらえる姿勢が大切であると考えている。

第1次では、これから始まる米作りに見通しをもたせ、有機農法による米作りの概要をとらえさせたい。また、なぜ勇気米(有機米)を育てようとしているのかを改めて考えさせ、これからの学習について具体的な課題を設定し、調べ学習に意欲的に向かえるようにしたい。

第2次では、勇気米(有機米)という農薬や化学肥料にたよらない安全な米を自分たちの手で作るために、作業の方法を自分たちで調べたり、稲の観察当番を決め毎週の稲の様子を記録したりするなど、自発的に作業に取り組ませたい。米作りの作業に積極的に関わる中で、食料を生産する人たちの苦労や工夫に気付かせ、収穫の喜びにつなげたい。

第3次では、収穫した米をどうするかを考えさせ、今後の計画を立てさせたい。育ててきた勇気米を大切なものとして考え、そのよさを多くの方に伝える(広める)ためにはどうしたらよいかを話し合

い、児童が意欲をもって主体的に活動できるようにしたい。

これらの学習を通して郷土のよさを大切に、日本人の主食である「米」について関心をもち、実際に米の生産を行うことや勇気米の安全性を調べることで「食」についての意識を高めたい。また、友達や地域の人々と関わりながら体験活動を進める中で人とかかわる力を育てていきたい。さらに、自分たちが作った勇気米のよさをたくさんの人に広める活動を取り入れることで表現力を育てたいと考える。

## 5 単元の目標

- 勇気(有機)米に関心をもち、自分で課題を立てる。 <課題設定能力>
- 有機農法に関わる資料を集め、進んで調べる。 <課題解決能力>
- 勇気米のよさについて調べたことや活動の結果をわかりやすくまとめて発表したり、勇気米のよさを伝える活動をしたりする。 <表現力>
- 地域の農業・米作りに対する理解を深め、進んで栽培活動に取り組む。 <主体的・創造的態度>
- 米作りをいろいろな人から学び、自分たちの活動に取り組んだり、課題の解決のために友達と協力し合う。 <人と関わる力>
- 食べ物に感謝の気持ちを持ち、これからの生活に生かそうとする態度を育てる。 <自己の生き方>

## 6 食育とのかかわり

- ・育みたい「心」  
<感謝の心> 食物を大切に、食物の生産等に関わる人々へ感謝する心をもつこと
- ・育みたい「実践力」  
<食品を選択する能力> 食品の品質及び安全性について自ら判断できる能力を身に付けること
- ・育みたい「知識・理解」  
<食事の重要性> 食事の重要性及び食事の喜び、楽しさを理解すること

## 7 指導計画と評価規準(全 50 時間)

時間	主な活動	教師の支援	評価規準
第1次 3時間	米作りの活動計画を立てる。 ・オリエンテーション② ・課題設定①	・昨年度の活動の様子をまとめた資料やゲストティーチャーの話からより関心を高め、課題を設定させる。	・自分の学習課題を設定することができる。
第2次 30時間	米作りについて知りたいこと(課題)についてグループごとに調べる。⑩  米作りの体験学習をする。⑳ ・肥料まき ・代かき見学 ・田植え ・草取り ・追肥まき ・網掛け ・稲刈り ・はせかけ ・脱穀 ・しめなわ作り	・図書館の本や資料、インターネット、農家の方に直接話を聞くなど、様々な方法で調べるようにさせる。  ・目的意識を持って意欲的に安全に作業させる。	・自分から進んでいろいろな資料を集め、調べようとしている。  ・協力者とコミュニケーションを図りながら進んで作業をしようとしている。
第3次 17時間	米作りについてまとめ、収穫後の活動について話し合	・伝えたいことを分かりやすくまとめさせる。	・調べた内容を分かりやすくまとめたり発表したりすることができる。



終 末 5 分	5 学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動について振り返り、感想を書かせる。</li> <li>・グループごとに分かれてそれぞれの作業を確認する。</li> </ul>	
	6 次時の内容を知る。		

(3) 板書計画

たくさんの人に勇気米のよさを知ってもらえる販売活動を考えよう。

広 告	広 告	呼 掛 け	ラ ベ ル	ラ ベ ル
呼 掛 け	呼 掛 け	餅 ま き	餅 ま き	お ど り

〈よさを伝える言葉〉  
 わたしたちが協力して作りました。  
 安心の米 おいしいコガネモチ  
 100%無農薬 EM 堆肥で安全一番等